

(前ページから続く)

ました。あの黄色い菜の花畑を思い描きながら大きな可愛い吟声が朗々と響き渡り、聞き入りました。頼もしい！素晴らしい！吟声に思わず手を叩いてしまいました。残り時間も少なくなり短歌の「白鳥は」漢詩の「不識庵機山を撃つ」の図に題す」を吟じ紹介して90分の講座を終了しました。

挨拶の後、吟じながら教室へ行く児童や、インターネットで調べた漢詩や詩吟についての児童との会話も弾み、楽しい2時間に元気を頂き有難うございました。



生け花を通じ子供達とのふれあい
食文10-文 上川道子

一日中の雨でしたが、チビッコ達と会えることを楽しみにしていましたので、心は晴れやかで「長坂小学校生け花講座」に参加しました。今年で3回目年毎に参加者、特に男の子の参加が多くなり活発で、質問も多く出て私達も教わることがあり勉強になりました。

最初に生け花のルーツ、日本の生け花の歴史(池坊)と日本の歴史が重なり合い、写真等で説明しました。興味を持ち生け花と日本の風土、季節のかかわりに耳を傾けてくれました。いよいよ実習、花を切っても指



を切らないでね、笑いが出てアツと思う間に時間が過ぎお花が残ってい

たので、再挑戦したい方が居ますかと声を掛けたところ、ハイ、ハイと声が多く、ジャンケンポンで3グループが花を生けて、直接できなかった児童達が、輪になり生けるのを眺め、時間超過で私達も有意義な一日で雨なんか忘れて気持ち良く帰路に着きました。



伝統文化講座を受け持って
音文1-文 亀田 俊彦

伝統文化講座の一環の中で、長坂小学校の6年生の希望児童の約40名を対象に三味線の講座を受け持ちました。この講座が開かれる際にいつも感じることは、日本の楽器にもかかわらず、この三味線が日ごろの生活の中から余りにもかけ離れているということです。



今回も、参加児童の殆どが、この場で初めて珍しい物を見て、手に触れるという様子です。それだけに三味線の構造の説明や、その音色に非常に興味深く聞き入っている様子が印象的でした。講座の中で順番に一人づつ三味線を手にして「さくらさくら弥生の空は」の一節のメロディを奏でて貰いましたが、メロディや、音の良し悪しは別として、初めて三味線を自分の手にして、音を出すことができたという喜びと満足感を味わったひと時だったと思います。

最後に三味線の伴奏で「こきりこ節」をみんなで合唱して短い時間でしたが今回の有意義な講座を結びました。

今後も、三味線に限らず、邦楽器に触れる機会を数多く作っていただきたいものです。



特別寄稿

理科学習支援奮闘記

生環-14 東本孝次

近年小学生の学力低下を嘆く向きは多いようであるが、とりわけ理科についてはその傾向が顕著だそうだ。そこで神戸市教委では理科授業の手助けをしてくれる人材を広く求め、今年度に入って、サイエンスアシスタントとして実際の授業に投入しはじめた。たまたま私は乞われて、某小学校に2学期から行きだした。その活動の中身は随分多岐にわたっており、5年生の校外学習で神戸製鋼所灘浜サイエンススクエアへ同行、4年生と明石天文科学館見学、6年生と希塩酸でアルミニウムを溶かす実験のサポートなど、さらに先日はもち米の稲刈作業に全校生徒と汗を流した。同校は各学年いずれも1学級しかないこぢんまりした小学校で、昔の山奥の分校さながらだ。午前の4校時を使って学年をうまく組合せ、順番に説明のうえ作業という具合に勤労を実体験させていた。講師は近所の農家の人で、稲作などの農作業について子供にも判るよう説明し理解させていたのには感心した。自然に接する機会が神戸市で一番多く、こういう授業には最も恵まれた環境にある小学校だと校長が自負しておられた。